

門脇のお寺で片づけ「お盆までには・・・」



お墓のドロだし、片づけを災対連が60人規模で行いました。西光寺の広大なお墓で、何日もかかります。お墓の周りには人の手で片づけるしかありません。少



しずつ、確実に片付けていきます。ご住職は、「お盆までにはきれいになると本当にありがたい」と話しています。本堂の改修も着々と進んでいます。



河北・運動公園仮設住宅で物資のお届け

仮設には、収納場所がないので衣装ケースが喜ばれました。

「玄関に網戸が設置されることになります」というお知らせビラを渡すと「本当ですか？ 早く取り付けてもらいたいです」と共通した声が上がりました。（26日訪問）

物資をお届けする準備作業

救援センターの2階が日用品と衣料です。「男性用下着」「子ども用衣類」などと仕分けして箱に詰めます。

右下の写真は、米の小分け作業です。10キロ、30キロの袋から約2キロ単位に小分けします。この作業を行ってから、物資のお届けに出発します。



救援センター前の側溝です。ドロ出し作業に出発する前に、どういう作業をするのか、実技で説明をしています。

入口までスロープがあるが、玄関が狭くて車イスが入らない。しらすぎ台仮設住宅。しらすぎ台の仮設住宅に25日、物資お届けと、要望の聞き取りをしたところ、車いすが玄関から入れない仕上げになっています。窓ごしに出入りしています。すぐに市に要求し、改善されることになりました。

「お届けが交流の場に」

「あなた 同じ仮設住宅に来てい

仮設住宅に「物資のお届け」に行くと、住民のみなさんが大勢出てきます。そこで、出会いがあります。被災後初めて顔を合わせ、「あなたと同じ仮設に来ていたのね。元気でなによりだったわ」